

# 教育センター ミニレター

広島市教育センター

index

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修の様子  
(授業研究に係る実践研修)
  - ・ 学校の取組紹介  
(吉島中学校)
  - ・ 今月のお勧め資料  
(授業研究に係る実践研修)
  - ・ 土曜開館  
特別セミナー案内
- ◆ 2 ページ
  - ・ 連載④「よりよいコミュニケーションづくりの工夫」
  - ・ 言語活動の充実シリーズ『社会科編』



10 月号

H26 7.30 授業研究に係る実践研修



7月30日に、鳴門教育大学大学院から村川雅弘教授をお迎えし、授業研究に係る実践研修を行いました。この研修は、各校の校内授業研究を推進している方々が受講されている全4日間の研修です。

当日の前半は、村川教授から他都市の取組を伺い、その実践に学びました。後半は、「指導案拡大法」「マトリクス法」「概念化シート」のいずれかの方法を実際に体験し、自校での活用の視点を検討し合いました。

ワークショップ型研修の方法は、様々あります。この村川教授の講義を通じて、各校が校内授業研究の内容や状況に応じ、方法をアレンジしながら、効果的に研究をすすめることが大切であることを学びました。今後本研修では、各校の実践を交流し、学び合う予定です。爽りの秋、各校の校内授業研究がますます充実したものになるよう、研修資料をアレンジしながら活用してみてください。



## ★今月のお勧め資料

授業研究に係る実践研修の講師、村川教授の資料と吉島中学校の資料を内部Webにupしています。各校の校内研修の充実にお役立てください。

SEARCH  GO

## 土曜開館特別セミナー

### 保護者との信頼関係を深めるコミュニケーション

10月の特別セミナーは、親業訓練インストラクター・教師学インストラクターの三上かおり先生を講師にお迎えします。

「保護者との信頼関係を深めるコミュニケーション」と題して、保護者の理解と協力を得ていくためのコミュニケーションの具体的な取り方についてお話しいたします。

保護者対応や学級懇談会を充実させる方法、話題などについて演習を交えながら、体験的に学んでいきます。ぜひ、ご参加ください。



電話/faxでお申し込みください。

10/18(土) 13:30~

# 連載④

## 「よりよいコミュニケーションづくりの工夫」

井口明神小学校  
小早川 知代子 教諭  
の実践より

### 全体の流れと見学するときの心構えを提示する

#### 今日の発表について

##### ★発表する人

はじめのあいさつ  
発表  
終わりのあいさつ

##### ★発表を見たり聞いたりする人

発表を見たら、拍手をします。

##### 心構え

次のようなことが心にかかるとき  
「言わない」のかを伝えます。

##### 良くない例

自分のほうがうまい。  
○年のときにたくさんできた。  
幼稚園のときにやめた。  
へた  
それだけ?

良くない理由

今回は、通級指導教室の取組を紹介します。

これは、「手品の発表会」に参加するときの心構えについて指導された事例です。多くの学校では、行事を行う前などに、子どもに見通しを持たせるための全体の流れの提示や心構え、良くない関わり方などを指導されているのではないのでしょうか。

その際、事例のように、良くない理由を示すと、子どもにはとても分かりやすくなります。更に、良い関わり方の具体、我慢できないときの対処法なども事前に確認することにより、スムーズに行動でき、「うまかった!!」という成功体験を積み重ねやすくなります。

#### 見学者としての良い関わり方の具体を伝える

★<sup>てい</sup>していても手品があわ  
ま<sup>ま</sup>言わない。  
タネをしていても<sup>てん</sup>と  
秘密にできる人だけ見てね

#### 我慢できないときの対処法なども伝えておくのがポイント!!

どーして どーして言いたい!!  
▽  
手品があわって、休け、時間:  
「ねえねえ、さき、て、こうじゃ、たんぱろ、  
とそ〜、と言いまわ。

やってみよう! つまずきから考える支援

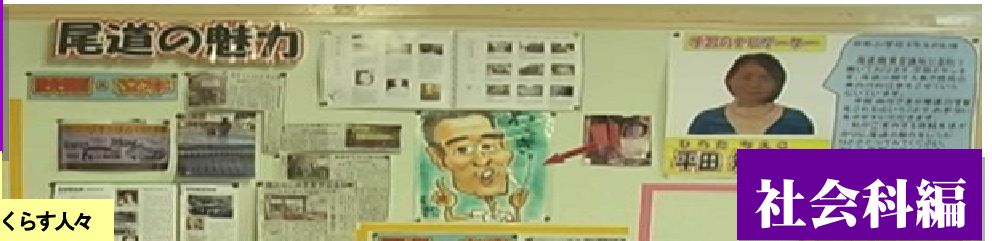
教育センター内部Webページでは、子どものつまずきに応じた支援を探るための資料を掲載しています。これまでに紹介した先生方の取組も含め、市内の先生方の実践の紹介もしています。

SEARCH 広島市教育センター 00

## 「言語活動の充実」シリーズ④

中野小学校 脇坂 将城 教諭の実践より

第4学年「特色ある地域の人々のくらし〜尾道市でくらす人々



### 社会科編

#### 思考力・判断力・表現力の向上のために

資料を根拠に、社会的事象の意味を解釈し、子どもが具体的な事実に基づいて説明したり、話し合ったり、書いたりする場を設定

### 単元の主な学習活動

【学習問題】なぜ、尾道市には多くの人々が訪れるのだろうか。

- 海産物・食・イベント・景観などのテーマごとに、尾道市の魅力について調べ、話し合う。  
●「見たい! 食べたい! 行ってみたい!」尾道市の魅力について考えよう。
- 空き家が増えていることを知り、尾道市でくらす人々の生活について調べ、話し合う。  
●魅力いっぱいの尾道でなぜ空き家が増えているのだろうか?
- 「空き家プロジェクト」の取組を調べ、尾道市のまちづくりについて考え、話し合う。  
●尾道市の人々は、この状況をどう改善したのだろうか?
- 今までの学習を振り返り、尾道市に多くの人々が訪れる理由について調べて分かったことを関連づけて考え、話し合う。  
●なぜ、尾道市には多くの人々が訪れるのか、自分なりの考えをまとめよう。
- 自分たちのまちの魅力や、今後のまちづくりについて考える。  
●自分たちが住んでいる町の魅力を考え、「わたしのまちづくりプラン」にまとめよう。

### 指導のポイント!

#### 1 子どもが意欲的に考える問いを作ろう。

子どもが、具体的な事実に基づいて説明できるようにするためには、問いづくりが大切です。左の実践では、魅力いっぱいの尾道市という子どもの概念を、空き家の多さでゆさぶることで、「なぜ?」「どうするの?」と、子どもが学習に引き込まれていきます。

#### 2 具体的な事実を基に話し合わせよう。

話し合いの途中で、「工夫・努力・安全・協力」等の抽象的な言葉が出たら、教師が「例えば?」と問い返すことで、思考が深まります。

#### 3 自分自身と関連させてまとめよう。

まとめでは、自分たちのまちづくりプランを考えるなど、自分の生活と関連させることで、子どもたちの思考を促し、思考力や判断力などを高め、社会参画への意欲や態度を形成させていきます。